

# 京都大学を支えてくださる みなさまへ



京都大学は、  
自由の学風を継承・発展させつつ多元的な課題に挑戦し、  
地球社会の調和ある共存に貢献することを目的として運営を行っています。  
京都大学は、これからも広く国民のみなさまに支えられた大学として、  
国民や社会に対する説明責任(アカウンタビリティ)を果たし、  
社会に開かれた大学を目指していきます。

## 国民のみなさまへ

### ●国民のみなさまにご負担いただいているコスト

国立大学法人会計基準では、国民のみなさまが各国立大学法人の運営に対してどれだけの資金をご負担していただいているのかを明らかにするため、「国立大学法人等業務実施コスト計算書」(26ページ参照)の作成を義務づけています。

国民のみなさまには、本計算書に計上されている本学の業務実施コスト約803億円に、国等からの受託研究(共同研究を含む)および受託事業(共同事業を含む)の約49億円と科学研究費補助金等の約126億円を合わせた総額約978億円をご負担いただいています。

日本人の人口(約1億2,543万人)により換算した国民1人当たりの負担額は780円となります。法人化当初と比較すると66円減少しています。(平成16事業年度国民1人当たりの負担額は846円)

**国民1人当たりの負担額 780円**

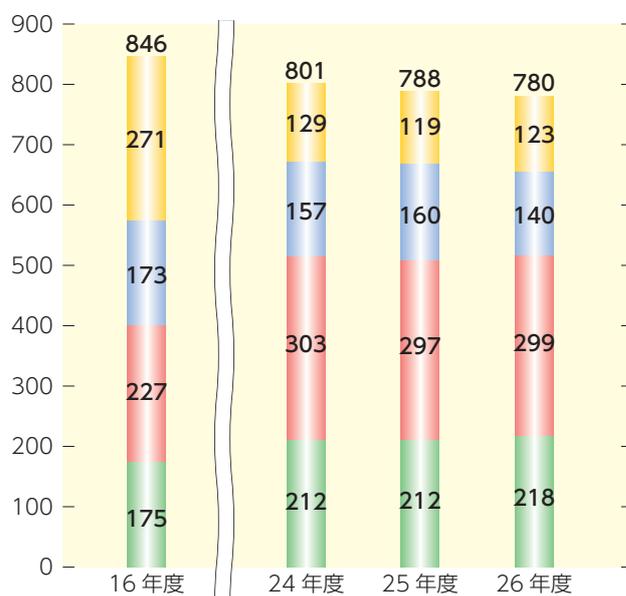
(業務実施コストに対する負担額 640円)

= (業務実施コスト(803億円) + 受託研究等・受託事業等(49億円) + 科研費等(126億円)) / 人口1億2,543万人

(人口:平成26年10月1日現在推計人口 総務省統計局)

### ■国民1人当たりの負担額の推移

(単位:円)



■ 教育経費\*  
■ 研究経費  
■ 国等からの受託研究等・科学研究費補助金等  
■ その他

(※) 学生納付金を含みません。

### ●環境への取り組み

本学は、平成18年度から環境報告書を作成し公表しています。本報告書では、遠隔地にあるキャンパスを含めた広範囲の環境データを公開しているほか、毎年ステークホルダー委員会を開催し、在学生や地域のみなさまをはじめとする多くの方々の意見を取り入れるよう努めています。

本報告書に掲載しているエネルギー使用量や廃棄物排出量などの環境データは、環境負荷低減の指標となるだけでなく、大学の財務改善にも役立てています。

平成26年度は、サステイナブルキャンパス構築に向けて自転車シェアサービスの導入や学生コンテスト等の新たな取り組みを行いました。本学は国公立大学等との連携を図るため設立されたサステイナブルキャンパス推進協議会(CAS-Net JAPAN)の事務局を務め、平成26年11月に北海道大学を舞台に年次大会を開催するとともに、平成27年2月には、前年度に続き2回目の国際シンポジウムを芝蘭会館稲盛ホールにて開催し、中国、韓国、日本におけるサステイナブルキャンパス構築に深く携わってこられた専門家の方々をお招きし、国内外の先進事例紹介やパネルディスカッション等を行いました。



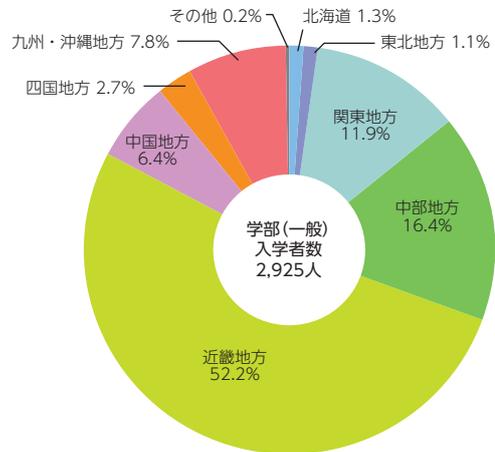
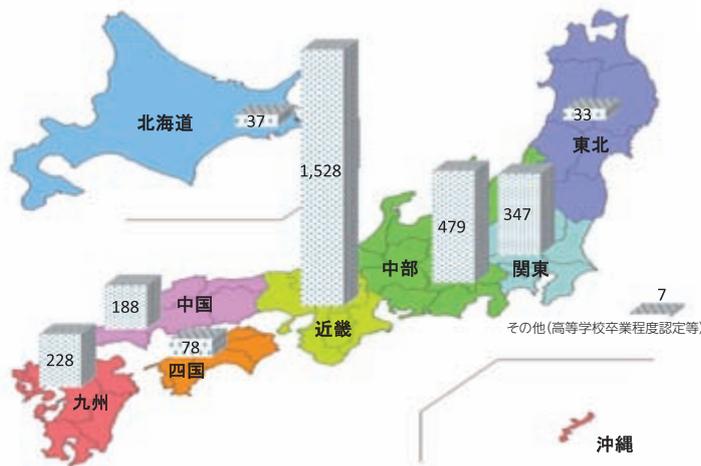
京都大学環境報告書2014(平成26年8月発行)  
(<http://www.esho.kyoto-u.ac.jp/?p=1475>)



「サステイナブルキャンパス構築」国際シンポジウムの様子

## ●平成26年度出身高等学校等所在地別の学部一般入学者数(単位:人)

本学の平成26年度出身高等学校等所在地別の学部一般入学者は下図のとおりで、約半数を占める近畿地方のほか、全国から学生が集まっています。



入学者出身高等学校等所在地構成比率

## ●京都大学における各種の基金

本学では、卓越した人材の輩出、最先端の研究成果の発信によって社会に貢献していくために、財政基盤の1つとして「京都大学基金」を設立し、卒業生や教職員、個人のみならず企業・団体から広くご寄付をお願いしています。

また、右表のように教育・研究プロジェクトを個別に支援するための基金を設置しており、平成26年度以降、新たに4つの基金を設置しています。みなさま方のご厚志は、学生支援や研究支援等の貴重な財源として活用させていただいております。

クレジットカード決済および口座振替による継続的なご寄付のほか、みなさまよりご提供いただいた書籍・DVD・CDなどの買取金額が本学への寄付となる「本de募金」、ご利用いただいた金額に応じた手数料が本学に還元される「京都大学カード」など、多様な寄付方法を設けています。

また、ご寄付いただいた方々に、大学の現状をお伝えするとともに、直接謝意をお伝えする機会として、総長主催の「感謝の集い」を開催しています。平成26年度は本学の研究施設見学や懇親会などを行い、本学や基金の活動に対するご理解を深めていただきました。

このほか、百周年時計台記念館での銘板掲示、ホームページ上での芳名掲載、感謝状の授与など、各種の顕彰も行っています。

大学の役割である「教育、研究、社会貢献」を全うするために、今後も京都大学基金の更なる拡充に向けて、みなさまからのご支援をよろしくお願いいたします。

### 京都大学の基金(平成27年7月1日現在)

名称	目的等
京都大学基金	深く真理を追求し、世界をリードする先端的、独創的な教育研究活動を行い、学問の府・京都から研究成果や知的財産を創出し、日本並びに国際社会の発展・貢献に資するためのものです。
iPS細胞研究基金	iPS細胞研究の成果を一日も早く社会に還元するため、基礎から応用研究まで実施できる研究環境を整備し、研究の加速化を図るためのものです。
思修館基金	幅広い知識と深い専門性、強い意志と倫理性を併せ持つ次世代のリーダーを育成し、世界の活躍の場へ送り出すことを推進するためのものです。
こころの未来基金	「こころ」のはたらきの解明をめざし、こころとからだ、こころとさえずら、こころと生き方の3領域を研究のフィールドとして、多様な連携研究プロジェクトを推進するためのものです。
湯川・朝永生誕百年記念募金事業	自然科学や人文・社会科学などの基礎科学に携わる、特に創造的・独創的な成果を挙げた若手研究者を対象として、表彰と賞金の授与などの記念事業を実施するためのものです。
旧制第三高等学校基金	旧制第三高等学校(三高)関係の歴史的に貴重な資料の収集、整理、保存、展示等の事業や調査研究を行い、三高の資料と精神を永らく後世へと継承するためのものです。
京大天文台基金	理学研究科附属天文台の教育研究関連施設の整備、天体観望会や見学会など社会との連携拡大、国際共同研究プロジェクト関連などの事業を行うためのものです。
京大硬式野球部基金	1898年の創立以来、日本の学生野球の牽引車としての歴史を有する京都大学体育会硬式野球部の活動を支援するためのものです。
iCeMS基金	「物質-細胞統合科学」という新たな研究領域を開拓し、医薬やエネルギー-環境分野などさまざまな産業にイノベーションの提供を目指すためのものです。
理学研究科基金	理学研究科・理学部が世界最先端の研究を展開し、また、国内外において理学研究を推進する研究者および理学の素養を生かして社会で活躍する職業人を育成するためのものです。

### 京都大学基金URL

<http://www.kikin.kyoto-u.ac.jp>

### 本de募金URL

<http://www.hon-de-bokin.jp>

### 京都大学カードURL

<http://www.kucard.kyoto-u.ac.jp>

## 在学学生・受験生のみなさまへ

### ●教育関係経費

学生の教育に要する教育関係経費は約588億円です。内訳は経常費用約426億円、教育用資産支出額約162億円です。これらは卓越した知の継承と優れた研究能力や高度の専門知識をもつ人材の育成という本学の目標を達成するために活用しています。

また、学生1人あたりに換算すると、約260万円となり、前年度より約61万円増加しています。これは、農学教育のさらなる向上を図るため、木津川新農場を購入したことや、東一条館等の教育用施設が竣工したことに伴い、教育用資産が増加したこと等によるものです。

なお、教育関係経費約588億円は、学生納付金収入と入学生料・授業料免除額の合計額約137億円(学生1人当たり約61万円)ではまかないきれないため、運営費交付金等約451億円(学生1人当たり約199万円)を充当しています。このほか、大学院学生に対する活動に一部の研究資金を使用しています。

### ●学生納付金・授業料等免除・奨学金

本学の学生納付金単価は右表のとおりです。平成26年5月1日現在の在学学生数は学部13,435人、大学院9,160人で、うち平成26年度の入学者数は学部3,024人、大学院3,432人です。平成26事業年度の学生納付金収入は、総額で約122億円であり、本学収入全体の約7.0%を占めています。

また、入学生料や授業料を免除する制度を設けています。平成26事業年度においては入学生料約0.4億円(273人)、授業料約15.4億円(6,828人)、総額約15.8億円を免除しました。

奨学金制度としては、日本学生支援機構奨学金や地方公共団体奨学金、民間団体奨学金のほか、本学独自の奨学金があります。

### ●学生への支援

平成25年度に設置した学生総合支援センター障害学生支援ルームの運営強化のため専門スタッフを増員しました。また、設備面での支援のため構内のバリアフリー化に取り組んでいます。

課外活動施設の整備としては、北部グラウンドの部室棟の建て替え工事や各種練習場の整備、アーチェリー場の建て替え工事を行いました。

また、大学院学生が行った教育・研究補助業務の対価を支給する制度があり、平成26事業年度はTA、RA※に対し、約6億円を支給しました。

(※) TA (ティーチング・アシスタント) :指導教員のもとで学部学生などに対する助言や実験、実習などの教育補助業務を行うことにより、教育者としてのトレーニングを積む機会を与えることを目的としています。

RA (リサーチ・アシスタント) :研究補助者として参画させることにより、研究活動の効果的な推進と、学生の研究遂行能力の育成を図ることを目的としています。

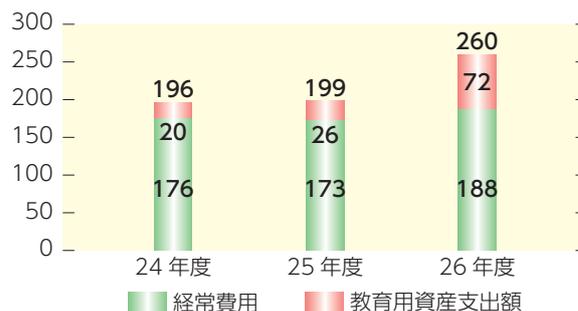
学生1人当たりの教育関係経費 260万円

(うち 学生納付金等61万円、運営費交付金収益等199万円)

= (経常費用(42,573百万円) +  
教育用資産支出額(16,205百万円)) / 学生数(22,595人)  
※年度比較については33ページ参照

【内 訳】 上記のうち、経常費用 188万円  
= 経常費用(42,573百万円) / 学生数(22,595人)  
上記のうち、教育用資産支出額 72万円  
= 教育用資産支出額(16,205百万円) / 学生数(22,595人)

### ■学生1人当たりの教育関係経費の推移 (単位:万円)



### 学生納付金単価 (単位:円)

区分	授業料	入学生料	検定料
学部	535,800	282,000	17,000
大学院	535,800	282,000	30,000 <small>(出願費控除等による差控 を行う場合は10,000)</small>
法科大学院	804,000	282,000	30,000
転学、編入学、再入学	535,800	282,000	30,000

授業料免除割合 13.2%

= 授業料免除額(1,541百万円) / 授業料債権(11,709百万円)  
※年度比較については33ページ参照

### 入学生料免除・授業料免除・奨学金URL

<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/education/campus/tuition>



北部グラウンド部室棟

### 学生総合支援センター URL

<http://www.gssc.kyoto-u.ac.jp/>

## ●国際化を目指した取り組み

国際戦略「2x by 2020」に掲げた「世界に通用する国際力豊かな人材の育成」のために、多様な留学プログラム・留学生フェアを実施しています。

「ジョン万プログラム(学生用)」は本学の学生を世界のトップ大学に派遣するプログラムで、平成26年度はオックスフォード大学へ85人、スタンフォード大学へ16人、ハーバード大学へ4人等、計132人の学生を派遣しました。

米国短期留学プログラム「The Kyoto-DC Global Leadership Program」は、世界で活躍できるグローバル人材の育成を目的とする、京都大学大学院生または学部生(3回生以上)を対象としたワシントンDCにおける国際機関等での研修プログラムです。本学出身者・同窓会ワシントン支部による経済的支援とプログラム運営にかかるさまざまな支援により、例年2月下旬から3月上旬の約2週間で行われており、平成26年度は10人の学生を派遣しています。

留学生フェアについては、平成26年11月にベトナムのダナン大学で、本学主催による留学説明会「Study in Japan」フェアを実施しました。これは「大学の国際化のためのネットワーク形成推進事業(グローバル30)」で本学の留学生獲得の重点国であるベトナムでの留学生誘致活動の一環として行ったものです。フェア会場では大学ブースに個別相談の場を設けて、教育内容、入試情報、特色等に関する情報提供を行い、多くの学生が訪れていました。



米国短期留学プログラムにおけるブルッキングス研究所での受講の様子



ダナン大学での留学生フェアの様子

京都大学ジョン万プログラム(学生用) URL

<http://www.john-man.rp.kyoto-u.ac.jp/index.html>

## ●高大連携を進める取り組み

本学では、「国際展開を担えるグローバル人材」、「自ら課題を発見し、チャレンジする人材」を求めており、高大連携を推進するために、右表のとおり各教育委員会等と連携協定を結んでおり、平成26年度は近畿圏以外の東京都、石川県、徳島県、徳島市、福井県の各教育委員会と連携協定を結びました。

各教育委員会と共催のさまざまな高大連携事業を展開しているほか、本学主催による「サマースクール 2014」を開催しました。さらに、「学びコーディネーター」による出前授業およびオープン授業を124校で実施しました。

また、平成28年度入試から高等学校との接続・連携を緊密なものとする高大接続型の「京都大学特色入試」を実施することとし、

平成26年度は「京都大学交流会」、「京都大学特色入試説明会」、「京都大学入試フェア」を開催し、全国的な周知活動を行いました。

### 連携協定一覧(平成27年7月1日現在)

大阪府教育委員会	滋賀県教育委員会
兵庫県教育委員会	京都府教育委員会
京都市教育委員会	和歌山県教育委員会
奈良県(教育分野の連携)	三重県教育委員会
東京都教育委員会	石川県教育委員会
徳島県教育委員会	徳島市教育委員会
福井県教育委員会	

特色入試URL

<http://www.nyusi.gakusei.kyoto-u.ac.jp/tokushoku/>

## ●図書

本学の蔵書数は和書・洋書を合わせて約686万冊、資産計上額は約338億円です。平成26年度は、蔵書数が約7万冊増加しました。

附属図書館では、「学習室24」(附属図書館が閉館した後も自学自習や談話ができるスペース)および「メディア・commons」(勉学や研究に必要な映像や音声情報を活用できるスペース)を中

心としたリニューアルを実施するなど、自学自習支援環境の機能向上を図っています。

学生1人当たりの図書 150万円(304冊)

=図書(33,839百万円)(686万冊) / 学生数(22,595人)

※年度比較については33ページ参照

## 附属病院ご利用のみなさまへ

### ●新病院長挨拶



病院長 稲垣暢也

平成27年4月1日付で、三嶋前病院長の後を引き継ぎ病院長に就任いたしました。

本院は設立以来わが国の医学・医療の発展に貢献してまいりました。なかでも診療において、患者さん目線に立つ

た安全で質の高い医療を提供することは、本院にとって最も重要な使命であると考えています。本院ではがんセンターを充実させるなどして高度医療の推進に努めています。同時に、引き続き、風通しの良い環境作りに努め、安全な医療を提供するために全力を尽くしてまいります。

### ●医学部附属病院の財務内容

平成26事業年度の附属病院収益は約338億円で、医学部附属病院の業務収益(約438億円)の約77%を占めています。

業務損益では、約16億円の利益が計上されていますが、この利益のほとんどは、さまざまな会計制度上の理由等により生じた資金の裏付けのない帳簿上の利益(29ページ参照)です。

実質的に使用することのできるキャッシュ(現金)ベースでは、近年、国からの運営費交付金が縮減の一途をたどるなど、非常に厳しい財務環境下にありますが、医療・研究・教育のいずれにおいても、広く社会に貢献し続けられるよう、日々、病院経営に邁進しています。

#### ■患者数 (単位:人)

区分	24年度	25年度	26年度	増減率
入院	356,990	352,463	347,016	△1.5%
外来	681,766	689,209	697,027	1.1%
合計	1,038,756	1,041,672	1,044,043	0.2%

※上記患者数は医学部附属病院と保健診療所を合わせたものです。

#### ■医薬品費及び診療材料費比率

**医薬品費及び診療材料費比率 35.5%**

=医薬品費及び診療材料費(12,005百万円)  
 /附属病院収益(33,784百万円)  
 ※年度比較については33ページ参照

#### ■附属病院セグメント情報 (単位:百万円)

区分	25年度	26年度	増減
教育経費	42	39	△3
研究経費	1,455	1,840	385
診療経費	21,336	21,712	376
受託研究費	1,343	1,943	600
受託事業費	71	50	△21
人件費	15,326	15,885	559
一般管理費	315	399	84
財務費用	444	356	△88
雑損	1	1	0
業務費用(計)	40,333	42,225	1,892
運営費交付金収益	4,167	4,814	647
附属病院収益	33,227	33,784	557
受託研究等収益	1,327	1,968	641
受託事業等収益	69	50	△19
寄附金収益	802	892	90
財務収益	-	-	-
その他	2,117	2,289	172
業務収益(計)	41,709	43,797	2,088
業務損益	1,376	1,572	196

#### ■附属病院収入 (単位:百万円)

区分	24年度	25年度	26年度	増減率
附属病院収入	32,199	33,633	33,542	△0.3%

#### ■医薬品及び診療材料(期末たな卸)比率

**医薬品及び診療材料(期末たな卸)比率 1.7%**

=医薬品及び診療材料(565百万円)  
 /附属病院収益(33,784百万円)  
 ※年度比較については33ページ参照

### ●平成26年度の取り組み

#### ■診療体制の整備および患者サービスの向上

本院では、診療体制の整備および患者サービスの向上に積極的に取り組んでいます。

平成26年度は、国内で初めて高磁場3テスラMRI手術室を導入するなど、更に質の高い医療を提供できる環境整備を進めました。

また、採血受付並びに外来診療受付時間を従来の午前8時30分から午前8時15分に変更したこと、および検査窓口で自動採血採尿受付機を導入したことにより、毎朝の混雑を緩和し、スムーズな診療への移行に努め、患者サービスの向上を図りました。



外来診療棟再来受付機



自動採血採尿受付機

## ■総合高度先端医療病棟の整備



総合高度先端医療病棟の完成イメージ図

平成24年度から整備を進めている新病棟の建設は、平成27年11月に竣工し、12月から新病棟での診療を開始する予定です。新病棟では、診療機能の拡充を図り、より高度で先端的な医療の提供を目指します。また、臓器別・疾患別に病床を再配置し、医師・看護師等の人材を効率的に活用することによって、より手厚い治療、看護の充実を実現します。

## ■先進医療の推進

本院は、高度な移植医療の実施や多くの先進医療の推進に取り組んでいます。特に生体肝移植では国際的な診療拠点となっています。また、骨髄移植、肺移植、腎移植のほか、難治性の糖尿病の治療としての膵島移植などを先進医療として実施しています。

また、脳神経外科においては医療用ロボットスーツ「HAL」の臨床研究を進め、今後先進医療として申請する予定です。

### ■高度な移植医療

(単位:件)

区分	24年度	25年度	26年度
肝移植	51	47	54
肺移植	22	27	34

### ■先進医療(厚生労働大臣が定める「評価療養」の1つです。)

(単位:件)

先進医療技術名	実施診療科	26年度
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	眼科	9
重症低血糖発作に伴うインスリン依存性糖尿病に対する心停止ドナーからの膵島移植	肝胆膵・移植外科	1
術後のホルモン療法およびS-1内服投与の併用療法	乳腺外科・がん薬物治療科	4
ペムトレキセド静脈内投与およびシスプラチン静脈内投与の併用療法	呼吸器内科	13
術前のホルモン療法およびゾレドロン酸投与の併用療法	乳腺外科・がん薬物治療科	4
ラジオ波焼灼システムを用いた腹腔鏡補助下肝切除術	肝胆膵・移植外科	3

## ■京大病院オープンホスピタル2014の開催



パネル展示の様子

将来の医療を担う高校生や看護学生などをはじめ、地域のみなさまに対し、安全で安心を得られる質の高い医療を提供するため院内の各部門が実施している活動内容を紹介し、京大病院の魅力・活カ・実カを知っていただくために、毎年開催しています。

平成26年度は11月に開催し、部門ごとの活動内容を紹介したパネル展示をはじめ、「インボディー測定」などの体験コーナーや、看護および放射線関係の学生を対象とした就職案内や院内各部署の見学ツアーなどを行いました。

## ■高磁場3テスラMRI手術室の稼働

本院では、平成26年10月に国内で初めて高磁場3テスラMRI手術室を設置し、稼働を始めました。

これにより、術前・術中・術後のMRI撮影を迅速に行うことで、正確な手術支援が可能となるとともに、平成25年度から稼働した次世代ハイブリッド手術室と連携させることで、治療に伴う患者さんの負担軽減や機能改善・温存に繋げることができます。



高磁場3テスラMRI手術室全景

## ◆ 企業のみなさまへ

### ● 卓越した知の活用に向けた体制強化と取り組み

本学は、研究成果を知的財産化し、その活用を促進することや、海外の大学、企業、政府系機関、技術移転機関との国際的な産官学連携活動を推進すること等を目標としています。

本学の産官学連携を統括する産官学連携本部は、「国家プロジェクト部門」、「共同研究部門」、「出資事業支援部門」、「知財・ライセンス化部門」、「法務部門」の5部門で編成される組織で、各部門では研究の内容や規模に応じたさまざまな制度を整えてい

ます。そして、産官学連携の推進や知的財産の確保と活用、ベンチャーの育成・支援等の全学的な推進支援業務を実施するとともに、学内外の関連組織と連携・協力し、本学が保有する知的財産の効果的・効率的な社会還元を図っています。

#### 産官学連携本部URL

<http://www.saci.kyoto-u.ac.jp/>

### ● 京都大学イノベーションキャピタル株式会社(KU-iCap)の設立

本学は、研究成果の事業化を目指す企業等への投資その他の支援を行うために、平成26年12月に「京都大学イノベーションキャピタル株式会社」を設立しました。

同社は、産業競争力強化法に基づく認定特定研究成果活用支援事業者として、本学に属する研究者による知(研究成果・技術等を含みます)を事業化することを目的として、既に設立された、またはこれから設立される企業(共同研究企業からのカーブアウトを含みます)に対して、同社が管理運営する投資事業有限責任組合(ファンド)を通じた出資をするほか、経営上の助言等、様々な支援活動を行います。

同社は、本学の100%出資子会社として、産官学連携本部や学内外関連組織とも連携・協力して、本学発ベンチャーの育成・支援に積極的に取り組んでいきます。



知財・産官学連携セミナー 2015での出資事業説明会の様子

#### 京都大学イノベーションキャピタル株式会社URL

<http://www.kyoto-unicap.co.jp/>

### ● 国際科学イノベーション棟の竣工について

平成27年3月に文部科学省の支援を受けて、国際科学イノベーション棟が竣工しました。

本施設では、主な活動として、本学の革新的イノベーション創出プログラムが取り組んでいる「しなやかでほっこりした」社会の実現を目指すため、コードレスな電力伝送・高度ICT技術が支える安心生活・センサーネットワーク・予防/先制医療・先端医療の分野で、研究開発・社会実装を行います。

また、本施設には地元自治体である京都府や京都市も入居し、本学の知のシーズの地元企業への橋渡し、特区制度を活用した規制緩和等による事業化支援に取り組み、本施設を中心に京都の産官学が一体となって、新たな産業の創出を目指します。

#### 活力ある生涯のためのLast 5Xイノベーション拠点URL

<http://www.coi.kyoto-u.ac.jp/>



国際科学イノベーション棟でのセミナーやシンポジウムの様子

## ●外部資金の受入状況等

平成24～26事業年度の外部資金受入額および受入件数の推移は、下のグラフのとおりです。

本学では、文部科学省「リサーチ・アドミニストレーターを育成・確保するシステムの整備」事業により、平成23年度から、高度な専門知識・経験を有し、本学の研究者を支援するとともに協同で業務の推進に取り組むリサーチ・アドミニストレーター(URA)を採用し、研究支援体制の強化に取り組んでいます。

URAが所属するKURA(京都大学学術研究支援室)では、競争的資金の獲得や研究成果の社会還元に向け、研究者とともに研究活動の企画・マネジメント、研究成果活用促進を行っており、研究者の研究活動の活性化や社会への情報発信等を推進しています。

KURA(京都大学学術研究支援室) URL

<http://www.kura.kyoto-u.ac.jp/>

■受託研究費受入額および受入件数の推移



■共同研究費受入額および受入件数の推移



■寄附金受入額および受入件数の推移



\*受入額および受入件数は、国・地方公共団体からの受入を除いています。

## ●特許等

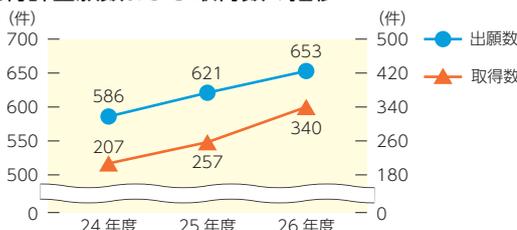
平成24～26事業年度の特許権等収入額および件数の推移、特許出願数および取得数の推移は、右のグラフのとおりです。

本学では、ひとつでも多くの研究成果を企業のみなさまにご活用いただき、「研究成果の特許出願→企業による実施→研究者等への利益還元→新たな知財の創出」という知的創造サイクルを有効に回すことができるよう、移転可能な特許(技術シーズ)を紹介しています。

■特許権等収入額および件数の推移



■特許出願数および取得数の推移



京都大学発明のご紹介(技術移転可能な特許) URL

[http://www.saci.kyoto-u.ac.jp/static/page\\_id\\_106.htm](http://www.saci.kyoto-u.ac.jp/static/page_id_106.htm)

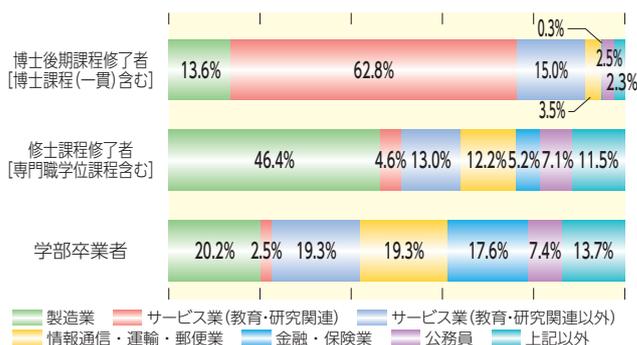
## ●卒業生・修了者の就職状況

平成26年度の卒業生・修了者数と企業等への就職者数は下表のとおりです。就職先は「平成26年度卒業生・修了者の就職状況(産業別)」にみられるとおり多岐にわたり、幅広い分野で活躍しています。このほか、修士課程や博士課程への進学者、司法試験の受験予定者等も多数います。

(単位:人)

区分	卒業生・修了者数	うち就職者数
博士後期課程	721	535 (74.2%)
博士課程(一貫)	168	113 (67.3%)
修士課程	2,196	1,573 (71.6%)
専門職学位課程	308	123 (39.9%)
学部	2,884	932 (32.3%)

■平成26年度卒業生・修了者の就職状況(産業別)



## 地域のみなさまへ

### ●公開施設等

本学では、みなさまに本学の活動や研究成果に身近に触れていただく機会を提供できるよう、さまざまな公開施設を設けています。

和歌山県にある白浜水族館は、昨年7月にリニューアルオープンしました。紀伊半島南部の海に生息する魚類とカニ、ヒトデなどの無脊椎動物を約500種展示し、紀南の海の豊かさを紹介しています。

総合博物館では、約260万点の学術標本資料を収蔵し常設展示を行うほか、企画展・特別展、「夏休み学習教室 体験EXPO」、「子ども博物館」等のイベントを通して、みなさまに本学の研究活動を紹介しています。

このほか、附属図書館や大学文書館でも、京都大学百周年時計台記念館1階歴史展示室において、随時企画展を開催しています。

また、本学には全国各地に多数の教育研究施設があり、それぞれの地域で「京都大学の窓」として親しまれています。これらの施設が一定期間に集中して施設見学会や講演会、体験実験、自然観察会等の公開イベントを実施する「京大ウィークス」は、毎年多くの方からご好評いただいております。平成26年度は、23施設で行ったイベントに延べ6,472名の参加がありました。

### 京大ウィークスURL

<http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/social/weeks/>

### ●生涯学習の機会の提供

本学では、広くみなさまにもご参加いただける公開授業・公開講座やイベントを実施しています。

また、各研究科・研究所でも、特色を生かした公開講座や施設公開、小・中学生、高校生を対象とした体験学習などを行い、み

### 主な公開授業・公開講座等

名称	概要	27年度開催時期
春秋講義	学内外の人と本学の知的資源の共有を図るため、年に2回開催される公開講義	春季：4月8日、15日、22日 秋季：9月（詳細 未定）
クロックタワーコンサート	教職員をはじめ地域の方々に文化・芸術に触れていただく場として、時計台記念館で開催（京都市立芸術大学との大学間交流事業）	5月10日
未来フォーラム	さまざまな分野で活躍中の京都大学卒業生を講師に迎え、講演と意見交換を実施	5月25日、6月22日、12月（詳細未定）
学びコーディネーター事業（出前授業・オープン授業）	ポストドクターや大学院生の協力のもと、全国の高等学校を対象に行う公開授業	8月3日～11月30日
ジュニアキャンパス	京都府内の中学校に在籍する生徒、または京都府内に在住の中学生を対象にした公開授業	9月13日
京大ウィークス	全国各地に展開する本学の教育研究施設における公開講座、講演会、施設公開等を一定期間に集中して実施する事業	10月10日～11月7日

### ■利用案内

#### ●白浜水族館【和歌山県西牟婁郡白浜町】

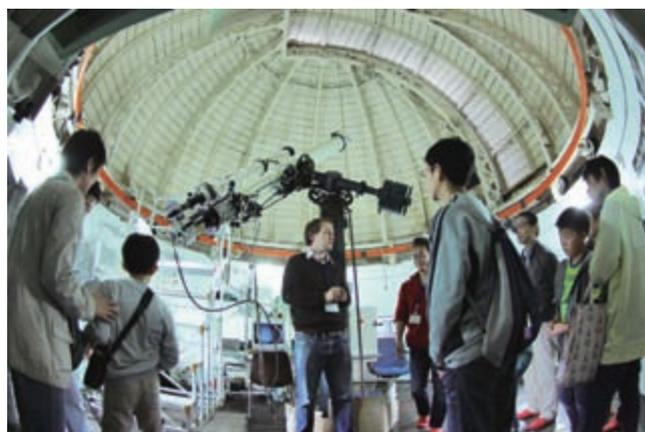
開館日	年中無休 9:00～17:00（入館は16:30まで）	
観覧料	高校生以上	600円(550円)
	小・中学生	200円(150円)
URL	<a href="http://www.seto.kyoto-u.ac.jp/aquarium/">http://www.seto.kyoto-u.ac.jp/aquarium/</a>	

#### ●総合博物館【京都市左京区吉田本町】

開館日	水～日曜日 9:30～16:30（入館は16:00まで） ※年末年始(12/28～1/4)、創立記念日(6/18) および8月第3週の水曜日は休館	
観覧料	一般	400円(300円)
	高校・大学生	300円(200円)
	小・中学生	200円(100円)
URL	<a href="http://www.museum.kyoto-u.ac.jp/">http://www.museum.kyoto-u.ac.jp/</a>	

※観覧料のうち、( )は団体観覧料(20人以上の場合)

### ■京大ウィークス2014の様子



花山天文台の一般公開でのザートリウス望遠鏡の解説の様子

みなさまに本学の研究活動に身近に触れていただけるよう、さまざまな機会を設けています。

### 公開授業・公開講座URL

[http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/social/open\\_course](http://www.kyoto-u.ac.jp/ja/social/open_course)

## 卒業生のみなさまへ

### ●卒業生とのネットワーク強化の推進

本学の卒業生に対する支援活動および連携協力を推進するため、卒業生名簿管理システム「京大アラムナイ」、「京都大学同窓会 Facebook」を運用しています。

「京大アラムナイ」は、卒業生のみなさまに登録いただき、オンライン上で登録された卒業生の検索を可能とするものです。卒業生自身によりシステム上の公開項目の設定が可能で、メールアドレスを公開せずに登録されたほかの卒業生から連絡を受けることができます。

「京都大学同窓会 Facebook」では、本学の情報を発信することを通して、卒業生相互、あるいは大学と卒業生間のコミュニケーションネットワークの強化を目指しています。

#### 京大アラムナイURL

<http://www.alumni.kyoto-u.ac.jp/>

#### 京都大学同窓会FacebookURL

<https://www.facebook.com/KyodaiAlumni>

### ●京都大学同窓会

京都大学同窓会は、本学の部局にある同窓会および国内外の地域同窓会、そして学生サークルの同窓会を緩やかにとりまとめる連携組織です。

平成26年11月に、第9回京都大学ホームカミングデイを開催し、延べ約2,800名の同窓生、学生、教職員および一般市民の参加がありました。第10回京都大学ホームカミングデイは、平成27年11月7日(土)に開催予定です。

また、平成26年度は新たに愛知京大会、石川県京都大学同窓会、京都大学福岡同窓会の3組織が京都大学同窓会に加入し、同窓生相互の交流や同窓生と本学との連携が今後ますます深まることが期待されます。

#### 京都大学同窓会ホームページURL

<http://hp.alumni.kyoto-u.ac.jp/>



第9回京都大学ホームカミングデイの様子



愛知京大会設立総会の様子

### ●京都大学東京フォーラム

本学の個性豊かな研究者が、その成果を首都圏にて発信する場として京都大学東京フォーラムを実施しています。

平成26年9月に開催した第9回京都大学東京フォーラムでは、「京の宇宙学」と題し、篠原真毅生存圏研究所教授、中野不二男学際融合教育研究推進センター特任教授、磯部洋明同特定准教授の講演と松本紘総長(当時)を交えたパネルディスカッションを行い、本学卒業生を中心とした国会議員、企業、官公庁の関係者等の来場者に対して、京都大学の今について情報発信しました。

京都大学東京フォーラムは、首都圏における本学の情報発信という目的にとどまらず、各界で活躍される本学関係者の結束を

図り、本学と本学に縁のある関係者をつなぐ契機となっています。



第9回京都大学東京フォーラムの様子

## 教職員のみなさまへ

### ●研究関係経費

研究関係経費は、経常費用等約676億円(内訳は、運営費交付金等研究経費約236億円、受託研究等経費約286億円、科学研究費補助金等約126億円、補助金(研究関係)約28億円)および研究用資産支出額約142億円の合計で約818億円です。

教員1人あたりに換算すると、研究関係経費は約2,065万円となり、前年度より約13万円増加しています。これは国際科学イノベーション棟やiPS細胞研究所第2研究棟等の研究用建物の竣工に伴い、研究用資産が増加したこと等によるものです。

### ■教員1人当たりの研究関係経費の推移



### 教員1人当たりの研究関係経費 2,065万円

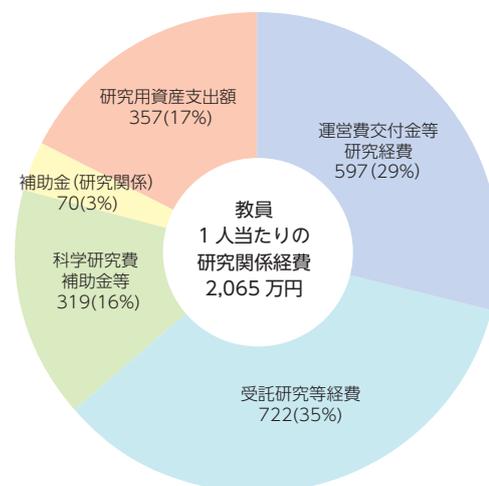
$$= \{ \text{経常費用等 (67,640百万円)} + \text{研究用資産支出額 (14,151百万円)} \} / \text{教員数 (3,961人)}$$

※年度比較については33ページ参照

※教員数:常勤教員数(平成26年5月1日現在)

### ■教員1人当たりの研究関係経費の内訳

(単位:万円)



### ●人件費

本学の業務費のうち人件費は約671億円で、平成25事業年度に比べ、約45億円増加しています。報酬および給与等については、常勤人件費が約26.6億円増加、非常勤人件費が約1.8億円減少、退職手当が約19.6億円増加しています。

常勤人件費が増加した要因は、給与の臨時特例に関する法律による減額が終了したこと等によります。

また、退職手当が増加した要因は、平成25年度に教員の定年年齢を引き上げたことに伴って、退職者数自体が一時的に減少していたこと等によるものです。

これらの要因により、業務費のうち人件費が占める割合(人件費比率)は44.1%で、平成25事業年度と比較し、0.4ポイント増加しています。

### ■人件費の内訳

(単位:百万円)

区分	24年度	25年度	26年度	差引
報酬および給与等	53,094	53,306	55,962	2,656
退職手当	7,819	7,732	7,550	△ 182
合計	4,071	1,598	3,560	1,962
合計	64,984	62,636	67,072	4,436

### 人件費比率 44.1%

$$= \text{人件費 (67,072百万円)} / \text{業務費 (152,228百万円)}$$

※年度比較については32ページ参照

### ■人件費および人件費比率の推移

(単位:百万円)



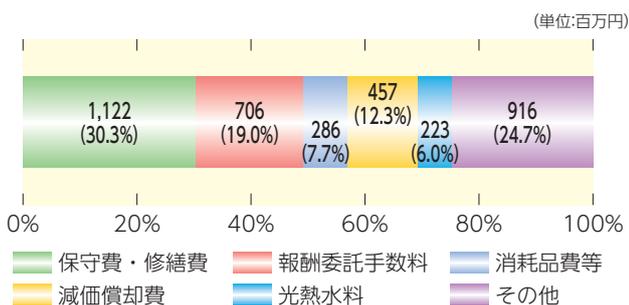
## ●一般管理費

平成26事業年度の一般管理費は約37億円で、平成25事業年度に比べ、保守費・修繕費や消耗品費等の削減により、約3億円減少しています。

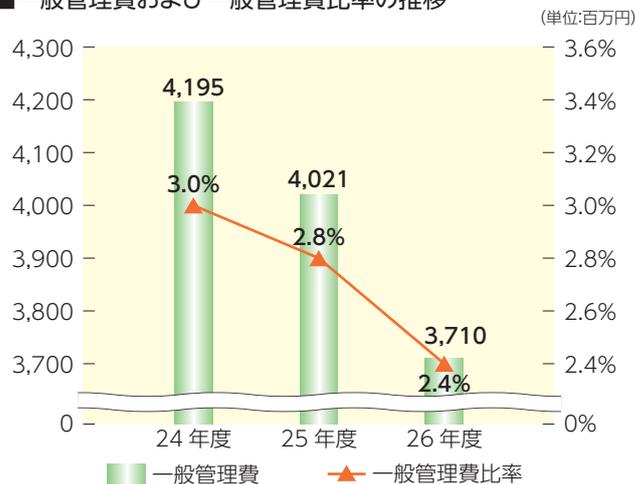
また、業務費に対する一般管理費の比率（一般管理費比率）は2.4%で、平成25事業年度に比べ0.4ポイント減少しています。これは、予算をより多く教育研究活動に充当できていることを意味します。



### ■一般管理費の内訳



### ■一般管理費および一般管理費比率の推移



## ●研究者への支援の取り組み

### ■次世代グローバル研究リーダーの育成

文部科学省「科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業」の採択(平成26年10月)を受け、「京阪神次世代グローバル研究リーダー育成コンソーシアムThe Keihanshin Consortium for Fostering the Next Generation of Global Leaders in Research (略称「K-CONNEX」)」を設立しました。

本事業では、京都大学、大阪大学、神戸大学をコア機関として、①若手研究者の安定的雇用、②海外機関、産業界、異分野の研究者等との交流に基づく多様な経験を積む研鑽の場・プログラムの提供、③手厚い育成支援体制、研究支援体制を三位一体で構築し、独創的で世界を牽引する次世代グローバル研究リーダーの育成を目指します。

### ■研究費等の支援

本学では、優秀な若手研究者を特定准教授・助教として採用し、最長5年間、自由な研究環境を与え自身の研究に没頭させることにより、次世代を担う先見的な研究者を養成する京都大学次世代研究者育成支援事業「白盾プロジェクト」を実施しています。

また、本学に採用されたばかりの若手研究者等の大学での研究のスタートアップを支援する「若手研究者スタートアップ経費」、研究キャリアを積んだ若手研究者の意欲的な活動を支援する「若手研究者ステップアップ経費」、海外研究組織・研究者との国際共同研究や異分野融合研究の新たな取り組みや企画を推進するためのチーム研究を支援することを目的とした「融合チーム研究プログラム(SPIRITS)」などといった研究費の支援を行っています。



京阪神次世代グローバル研究リーダー育成コンソーシアムURL  
<http://k-connex.kyoto-u.ac.jp/>



白盾プロジェクトにおけるセミナーの様子